

1986年4月10日

第1号

発行人 松崎理恵子
編集 神通研広報員

神通研会報

わがはいは新聞である。
名前はまたない ^{だから} 募集中

発行所

藤沢市藤沢933-2
ろうあセンター内
神奈川県手話通訳問
題研究会(全通研支部)

神奈川県支部 ~~スタート!~~

会長
松崎理恵子

やっとできました、全通研支部。おもえば昨年2月、支部結成の呼びかけに古い顔ぶれが集まってくれ、大変嬉しく思いました。そういえば、県・川崎・横浜と、通訳派遣などの行政施策やサークル活動が活発になればなる程、地元の活動が中心になり、県下の仲間が顔を合わせる機会が少なくなってきたようです。

サークルに専念する人、ろう運動に熱意を燃やす人、地域のろう者と交流する人、通訳として活動する人、要約筆記をする人...様々

な人々か様々な思いを抱いていると思います。そうした活動や生活の中で感じたこと、考えていることを持ち寄って、交流、学習し、それぞれが更にさわやかに、元気になれたらと思います。手話に限らず、コミュニケーションについて、人間についてなど語り合える仲間が集まり、つながっていただけると期待しています。

全通研神奈川県支部、いよいよスタートです。



ピンつうけんの系組織図だぞ!!



県ろう団体職員

会長

松崎

副会長

江成

事務局長

古山

会計

志水

会計監査

岩淵・浜田

企画研修

本多・岡野・長田・成川

総務

提

会報

木村・佐藤・宇元

(Q)これどうまくいくのですか?
(A)やってみなきゃわかりません

創刊
企画

県内役員棲息図



辻成
(県央)

※()内の
名称は居住
地ではなく、所属域です。



成川(県西)
堤(湘南)
本夕(川崎)
佐藤(三浦)

岩瀬(川崎)
岡野(川崎)
木村(川崎)

松崎(横浜)
長田(横浜)
志水(横浜)
石山(横浜)
渡田(三浦)
守元(三浦)

結成総会にて

会則の承認、60,61年度の役員選出、支部会費が決まりました。60年度会費については役員に一任せられました。

61年度
総会 **4月27日** P.m 1:00~

ろうあセンター(藤沢)にて事業計画等について話し合います。なお入会受付も行いますので会員の皆様は60年度支部会費 500円
 ○ 61年度全国会費 2500円
 ○ 61年度支部会費 1500円
 を、欠席の方は委任状をお忘れなく!

会員の声

岩瀬成子さん(会計監査)にテレビインタビュー!!

- (○岩瀬さん、●インタビュアー)
- 手話との出会いはいつですが...
- 浜松の方の学校での教員時代が始めてですね。通訳は川崎での認定試験后の方です。
- 全通研について何か一言...
- カウ着し一体となつて生活と権利を考え運動していく団体と思っています。期待しています。
- 今回は川崎の方の学校の岩瀬先生でした。アリガトウサンデス。

役員会報告

事務局長 古山 到

・2月24日と3月17日の2回、役員会を開催いたしました。会場は横浜の県社会福祉会館で夜7時から2時間、進行役は事務局長が務め書記は他の役員が交替で担当しております。

・2回にわたり61年度事業計画及び予算案を模試しておりますが、その他24日には60年度会費を500円いただくことや61年度総会の日程調整、手話フェスティバルのパネル展示の件を、又17日には幹事の仕事を「総務」「企画研修」「会報」とし幹事8名にそれぞれ分担してもらい、さらに総会当日の進行と受付等役割分担など審議あるいは決定いたしました。

・今後は開催日を定例化し会員の皆様にもお気軽に傍聴できる役員会を考えております。よかしく



手話通訳 問題研究

手話通訳問題をめぐる全国唯一の研究誌!! No.26在庫あり。

No.27配布中...発行 全通研

“神通研”(じんつうけん)

とは“神奈川県手話通訳問題研究会”の略称

ですよ。



皆さまからの声をお待ちしています。

情報コーナー

・61.4.4 川崎筆記通訳グループ 結成さる。

・4/26~27 第4回全国要約筆記指導者養成講座(中級)会場・大阪

・5/9~7/11 毎週金曜夜要約筆記養成講座(初級)於県ろうあセンター

身体障害者スポーツ大会

川崎

横浜

県

陸上	4/27	等々力グラウンド	5/13	三沢グラウンド	5/18	藤沢グラウンド
卓球	5/18	井田身体育館	5/18	都筑地区センター	6/22	藤沢体育館
水泳	7/20	井田日輪プール	5/18	あゆみ荘北部プール	7/27	七沢リハセンター

5/29~6/1 第35回全国ろうあ者大会<宮崎県宮崎市>

参加費3,000円、つどい分科会500~3000円、宿泊9,000円

※お申し込みは4月15日までに県ろうあ団体連絡協議会へどうぞ!

竹内敏晴さんが書いた部分から一筆者は、子どもの頃耳かほとんど聞こえなかつた。「おはよう」という声か「あよ」と聞こえ、自分も「あよ」と答えた。ある先生か、大きな声で正しい発音を教えてくれたか、(以下抜粋)確かにことばを教えてくれるということはいいいことだけれども、それは私にもないただの音、少なくとも号にすぎないわけです。「らだ全体か躍っている、人はずみ出る働きかけなわけ、そのことばのほうは捨てらいうことだけを明日からや次の日に会うと先生は、「向こうか期待していることと一声でる。全然自信かあやべろうという意欲か起こおるとするときにはもう声(中略)「あよ」かことかしないかは別にして、私った瞬間であって、喜びでとであつたわけです。それを断ち切られた。だから、それをくり返していれば、自分か生きていこうとする方向をストップされるということですから、それは心理的にだけではなく本当に肉体的に死の方へ追いこまれていくことになるのです。

「障害のある子に豊かな表現活動を」から
大井清吉他編
なんだろう

コミュニケーション

とってはことばでもなんでも情動と無関係な冷たい記あよ」と言った時に私はかか人にふれることを求めてですからこれはことばです。れて、ただ記号を並べるといれといわれたわけですよ。おはよう」と言ってくれる。かこっちにわかる。「おありませんし、自分の中にしらないから次に「は」と言か消えていくわけです。はとして社会的に通用するにとっては人と人か触れああって、生きていこうというこ

★ **せけん話**

★ 十年ぶりに昔のサーワルの会報を取り出して見た。自分の稚拙な字や(今もですが)気負った文が散らばっている。その名も「白い雲」今も健在で刊行中とか...嬉しいです。(K記)

★ 何事も書くより慣れろ主義で学びながらお知らせ版から機関紙と呼ばれるようになりたい。(自カゼロのR記)
 ★ 春は好きなのですが、人並みに鼻炎に悩んでいます。せめて会報だけは、機関紙炎にならないようにしたい。(M記) ...

